

男女共同参画セッション「研究者が担う、多様な役割とキャリア」

尾崎大輔（東京都立大学大学院／日本評論社）

近年、大学教員の研究時間の減少や出版される論文数の減少などが文部科学省等の調査で指摘されている。2025年には、文部科学省の有識者会議による「科学の再興に向けて提言」が公表され、その中では「我が国の基礎研究・学術研究の国際的な優位性を取り戻す」ために、先導的な研究環境の確保により研究時間割合50%以上等を実現する研究大学を、2030年度末までに20大学以上実現することを謳っている。さらに、女性研究者の増加や共働き世帯の一般化に伴い、研究者が家事・育児と研究活動をどのように両立するかという課題は、より広く共有されるものとなっている。これにより、従来は個人の選択や努力に委ねられがちであった両立の問題についても、研究環境や制度との関係の中で捉え直す必要性が高まっている。

しかし現実には、増える教育・学内業務との両立、その他外部の活動との折り合いをどうつけるか、自身の生活や家事・育児とのバランスをどう図るかなど、個人ごとの事情によって困難はさまざまに存在している。一方で、研究者には、社会一般や政策・ビジネスの現場において経済学への理解を深めるための発信なども求められており、そうした活動に割く時間と労力をどのように確保するかも重要なテーマである。政策として支援や対策を講じることはもちろん重要だが、多様な現状を把握・シェアして、それに向き合うための工夫を考えていくことも有益だと考えられる。

そこで本セッションでは、研究活動と生活、家事・育児、その他の学内外の業務との両立について、横山泉氏（一橋大学）、梶谷真也氏（同志社大学）の双方から、誰もが直面しうる困難を多角的に整理したうえで、それぞれのご経験や困難に立ち向かう工夫などをお話いただく。加えて、大学等や外部（政府等、メディア、ビジネス）での仕事と研究活動をいかに両立するか、そのモチベーションやそこで直面しうる障壁を乗り越えるコツなどを、安田洋祐氏（政策研究大学院大学）にお話しいただく。そのうえで、多様な役割・責任と研究の両方に取り組むためにどうすればよいかをフロアも交えて議論する。

報告

座長：中山真緒（日本女子大学）

- (1) 横山泉（一橋大学）
- (2) 梶谷真也（同志社大学）
- (3) 安田洋祐（政策研究大学院大学）

パネルディスカッション

横山泉（一橋大学）

梶谷真也（同志社大学）

安田洋祐（政策研究大学院大学）

司会：尾崎大輔（東京都立大学大学院／日本評論社）